

# 言語障害のある中学生の指導・支援の充実のために

以前から中学校のことばの教室が少ないことで、小学校のことばの教室を終了した言語障害のある中学生が、継続した指導を受けられないなどの課題がありました。

平成30年4月より高等学校において通級による指導が開始されました。今後、切れ目のない連続した学びを実現するため、言語障害のある中学生のニーズに合った指導・支援の充実が求められています。

## Q1. 言語障害のある中学生の実態はどうなっていますか？

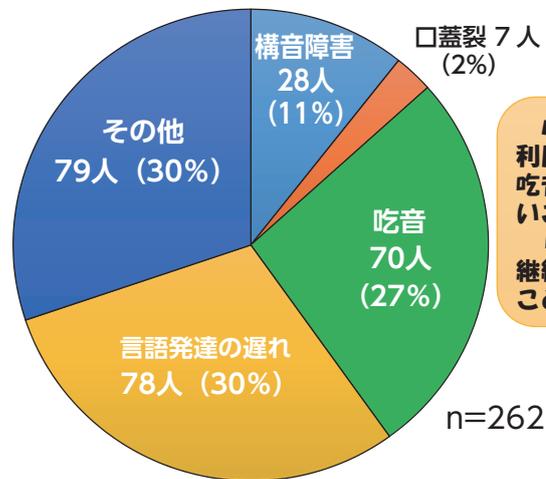
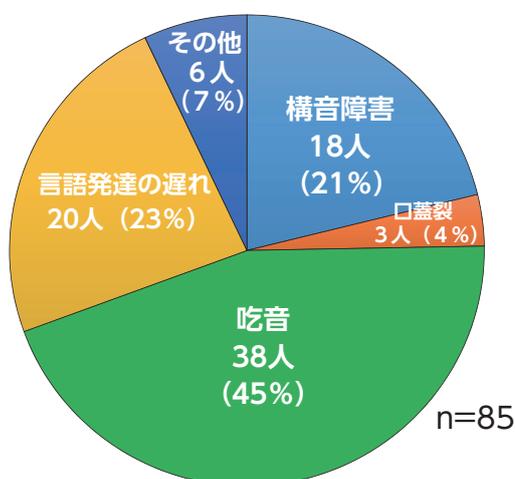
全国の小・中学校、義務教育学校等のことばの教室の先生を対象に、調査を実施しました。1,900校に発送し、1,090校（小学校1,030・中学校60）から回答がありました。回収率は、57.4%でした。調査の結果について一部紹介します（A-1、A-2は別の質問に対する回答であり、nは一致しない）。

### A-1 言語障害のある中学生が小学校のことばの教室に通っていることがわかりました。

表1. ことばの教室に通っている言語障害のある小学校6年生及び中学生の人数

		小6	中1	中2	中3
小学校	言語障害特別支援学級	86	2	0	1
	言語障害通級指導教室	1534	53	49	27
中学校	言語障害特別支援学級	-	12	12	8
	言語障害通級指導教室	-	81	82	60
合計		1620	148	143	96

### A-2 どのような言語障害のある中学生がことばの教室に通っているかわかりました。



小学校のことばの教室を利用して  
いる中学生の中で吃音のある生徒の割合が多いことがわかりました。  
中学校に進学した後も継続した指導が必要であることが考えられました。



図1. 小学校のことばの教室に通う言語障害のある中学生

図2. 中学校のことばの教室に通う言語障害のある中学生

## Q2. 言語障害のある中学生や小学校6年生は中学校のことばの教室をどう思っていますか？

中学校のことばの教室に通っている言語障害のある中学生(5校14名)に対する面接調査の結果及びW小学校の児童や保護者が中学校のことばの教室に通おうと考えた理由の一部を紹介します。

### A-1 言語障害のある中学生はことばの教室に「安心できる人・場所」があるとっています。

#### Q. 通っている理由を教えてください(※一部抜粋)

- ・苦手な学習ができるようになったから ・学校に行くきっかけになったから
- ・中学校に入学後、悩みが増えたから ・いろいろな人と友だちになれるから 等

#### Q. どんなことをしたいですか？

- ・今のままで十分 ・わからない学習を教えてほしい ・友だちとのふれあい
- ・悩んでいること、たわいのない話も、込み入った話もしたい 等

#### Q. 通ってよかったことは？

- ・学校に来るのが楽しくなった ・いろいろな悩みがすっきりした
- ・自分の居場所ができて、自分を見つけることができた 等

#### Q. どんな教室なら通いやすい？

- ・異性の先生だったらやめていたかも ・もっと友だちと話す機会が増えたら良い 等



### A-2 W小学校のことばの教室に通っている小学校6年生は、中学校に進学するまでにいろいろ悩んで中学校のことばの教室に通うことを決めていました。

表2. W小学校の児童や保護者が中学校進学後に中学校のことばの教室に通おうと思っている理由

- ・小学校でことばの悩みがある友だちと出会えたから(吃音)
- ・困った時に悩みを聞いてもらえるから(吃音)
- ・2月に中学校の授業や部活を見学してやっていけるか心配になったから(構音障害)
- ・自分から新しい友だちに話しかけられるか不安になったから(構音障害)
- ・別の小学校の友だちや中学校の担任に吃音の理解をしてもらえるか不安だから(保護者)
- ・本人は気にしてないけれど、12月ぐらいから吃音が目立つようになったから(保護者)
- ・保護者としては、心配がなくなるまでことばの教室に通ってほしいから(保護者)

保護者は中学校のことばの教室に通うことを希望していますが、本人は「大丈夫」「今は困っていない」「疲れると思うからいけない」と保護者と意見が一致しないこともあります。



子どもの気持ちに寄り添って、一緒に考えていくことが大切ですね。



### Q3. 実際に言語障害のある中学生をどのように指導していますか？

#### A-1 小学校のこぼの教室と中学校のこぼの教室が隣接しているW小学校・X中学校の取組を紹介します。

##### 【小学校から中学校への切れ目のない指導・支援－W小学校の取組－】

小学校のこぼの教室と中学校のこぼの教室が隣接していることで、小・中学校のこぼの教室担当教員が、お互いの指導内容について学び合ったり、中学校進学に向けて不安になる保護者や子どもに、具体的に中学校の様子を伝えたりすることができました。

また、小学校6年生に年間を通じて、計画的に中学校進学に向けた活動(表3)を行うことで、児童は安心して中学校のこぼの教室に通級することができました。

#### 言語障害のある小学校6年生の指導を通して・・・

- ・2月頃になると中学校のこぼの教室を希望する生徒と保護者が増えてきます。
- ・高学年になると言語症状の軽減・改善に向けた指導が難しくなることがあります。
- ・中学校のこぼの教室では、自分は自分で良いという自己肯定感が高まる指導が大切になると思います。
- ・自己表出の苦手さを気にせず表現できる中学校のこぼの教室は、生徒が自分と向き合い、自立を促す場所になっていると思います。



W小学校こぼの  
教室担当教員

表3. W小学校のこぼの教室に通う6年生への中学校進学に向けた年間の活動等

4月	・児童と中学校の生活についての期待や不安などのイメージを共有する。 (例:中間・期末テストがある、部活がある、教科担任 等)
5月	・小学校学級担任と卒業までに児童に身につけてほしい力と学級の姿を共有する。 ・中学校のこぼの教室での支援の妥当性について意見交換する。
9月～	・自分のこぼについて考えたり、一般的な知識を話したりする。 ・中学校生活への見通しや期待感がもてるような指導を行い、中学校進学に向けての期待を高め、不安(例:自己紹介)の軽減に努める。 ・中学校の学校祭等に参加する児童もいて、中学校のイメージがもちやすくなる。
12月頃	・中学校のこぼの教室での指導を希望する児童、保護者がほぼいない。
2月	・中学校のこぼの教室に指導を希望する児童、保護者が増加する。 ・理由として①環境が大きく変化することを実感する ②中学校のこぼの教室への通級にかかる時間が小学校のこぼの教室と変わらない ③通級の継続手続きの負担感が少ない ④改めて教育相談を受ける必要がない ⑤担当者間での引継ぎをする ⑥その他(中学校のこぼの教室見学して安心する 等)
3月	・保護者の了解を得て、中学校のこぼの教室担当者と引継ぎを実施する。 ・中学校のこぼの教室の指導が、小学校と連続していることを意識して伝える。

## 【言語発達の遅れのある生徒2人を複数指導した事例－X中学校の取組－】

「言語発達の遅れ」がある2名の生徒は、自分の気持ちを上手く伝えることができないため、学級の中で孤立してしまう傾向にありました。X中学校のことばの教室では、2人をペアにして指導しました。「アニメやゲームが好き」「絵やマンガを描くのが好き」という共通点をいかして、「交換マンガ」(図3)に取り組みました。

指導を重ねていくうちに、「話をして気持ちを共有したい」という思いからことばが育っていきました。生徒たちはお互いに「友人がほしい」「仲良くしたい」という気持ちが高まっていき、相手のことを考えて、ことばを選んで話したり、相手の様子を見ながら分かりやすく伝えたりすることが上達していきました。



図3. 交換マンガ

### 言語障害のある中学生の指導を通して・・・

- ・思春期を迎えた生徒の関心は、大人よりも友だちに向くように感じます。
- ・大人との個別指導も重要だけど、友だちとの小集団指導も必要だと思います。
- ・小学校のことばの教室での「ありのままの自分を見せても大丈夫」という経験を大切にして指導することを心がけています。



X中学校ことばの  
教室担当教員

## A-2 言語障害のある中学生に中学校の通級指導教室ができることを紹介します。

### 【言語障害のある中学生に中学校の通級指導教室ができること－Y中学校の取組から－】

思春期を迎えた生徒には、通常の学級の友だちに対して、「気後れ」を感じながら生活しているように感じる場合があります。「通級が楽しい」という言葉を聞くと、ことばの教室担当教員としては嬉しくなる半面、彼らの感じている「暮らしにくさ」の大きさを感じてしまうこともあります。

#### 言語障害のある中学生が望むもの

- ・自分のことをわかってくれる友だちがほしい。
- ・学校の先生に自分のことをわかってもらいたい。
- ・保護者に自分のことを受け止めてもらいたい。
- ・自分のことを好きになりたい。

#### 中学生に中学通級ができること

- ・安心して話すことのできる「環境の整備士」としての役割
- ・自分を好きになるために必要な「材料提供者」としての役割
- ・もっと楽に生きる方法を一緒に考える「仲間」としての役割



言語障害のことを考えることも大切だけど、今だから、必要なこともあるんです！

言語障害のある中学生

言語障害がある中学生にとって魅力ある通級にするためには、「言語障害の専門性」と「安心と信頼」が必要だと思います。



Y中学校ことばの  
教室担当教員

**A-3 吃音のある中学生に小学校のことばの教室で長期休業中での小集団指導を実施している事例を紹介します。**

**【長期休業中における小学校のことばの教室での小集団指導－Z小学校の取組－】**

Z小学校のことばの教室に通っていた吃音のある生徒たちが、長期休業中にZ小学校ことばの教室に集まって、吃音の悩みを語ったり、交流したりしています。同世代の仲間と吃音のことを語り合う中で、「吃音についてあまり深く考えないようにしている。そればかり考えちゃうと、それでいっぱいになっちゃうから。」等と吃音に対する向き合い方を語ることもあります。

長期休業中に小学校のことばの教室で過ごす時間が、安心できる仲間と吃音について語り合える大切な機会になっています。また、生徒が、困った時に一人で抱え込まずに受け止めてくれる保護者の存在も大切にしています。

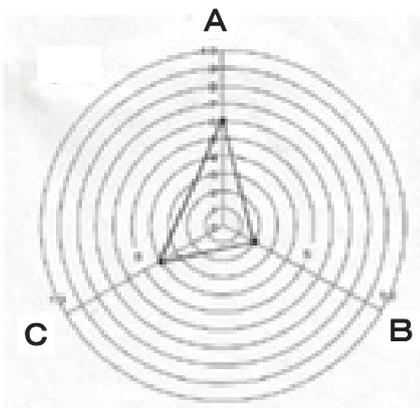


図4. 吃音レーダーチャート

**吃音レーダーチャートについて (図4)**

- ・レーダーチャートを使って、吃音の現状を知る機会にしています。
- ・レーダーチャートは、  
A：吃音の様子  
B：まわりの理解  
C：吃音で困っていることを10段階で表しています。

注) 吃音レーダーチャートは、神奈川県難聴言語障害教育研究協議会において秦野市立末広小学校のことがばの教室が発表したものです。

中学校や高等学校の先生方に、吃音の理解が広がっていくようにしていきたいです。



Z小学校ことばの教室担当教員

**言語障害のある中学生の指導・支援の充実に向けて**

今回の研究では、言語障害のある中学生への指導・支援として、「言語障害のニーズ」と「中学生段階のニーズ」の側面(図5)があることが考えられました。

また、言語障害のある中学生を指導していく上で、これまで培ってきた言語障害教育の専門性を活用しながら、生徒が今、必要としている「中学生段階のニーズ」を柔軟に見極めていく必要があります。

そして、生徒が悩んだり、困ったりしていることを一緒に考えたり、支えたりしてくれることばの教室担当教員(大人)や仲間の存在を必要としていることが考えられました。



図5. 言語障害のある中学生が必要としている指導・支援



本リーフレットは、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所で実施した基幹研究（言語班）  
「言語障害のある中学生への指導・支援の充実に関する研究」（平成30年度～令和元年度）の  
成果をもとに作成したものです。（研究代表者 滑川 典宏）



独立行政法人  
国立特別支援教育総合研究所

〒239-8585 神奈川県横須賀市野比5-1-1  
TEL: 046-839-6803 FAX: 046-839-6918

（令和2年5月発行）